

■コントロールできないリスニング・スピード

話しことばの特徴は伝達手段が音声であるということにある。話すそばから消えていく音声を媒体としているために、話しことばは不安定であり、その場限りの一過性の性格を持つ。したがって、リスニングの場合には、話し手のペースに合わせて、話し手の言う意味を理解していかなければならない。聞き手は話し手の意志に支配され、話し手の話すスピードに従って理解していくことを強要される。

英語国民が日常生活で話す英語のスピードは、毎分 150～200 語であると言われている。初歩レベルであれば、相手の英語が分からない場合には聞き直すこともできようが、実際の場合では、1回で相手の言うことを理解しなければならない。これは学習者にとっては大変な負担である。しかし、何がなんでも解決しなければならない大きな問題である。話しことばのスピードに慣れるための注意点としては、次のことが考えられる。

1. **発音を聞き取ること。**特に弱音に注意する。たとえば、**and then** はゆっくり発音すれば[ænd ðén]となるが、普通のスピードでは[ənən]のように聞える。**He is swimming.**は普通は[hiswíminj]と発音され、is が脱落する。また、**She dropped the flower.**は[jidrápðəfláuər]と発音され、**drop** か **dropped** かは発音だけからは区別できない。逆に言えば、単に一つ一つの物理音を忠実に聞き取っても聞き取りは成功しない。物理音はスペリング通りには発音されないからである。これは、意味を聞き取る努力をしないと、スペリングは理解できないということを示している。
2. **日本語を介在させず頭から理解すること。**スピードが速いので訳している暇はない。また、関係代名詞がこようと何がこようと、すべて頭から理解しなければならない。分からないからといって、いつまでもぐずぐず固執はできない。
3. **全体の思想をとらえること。**個々の単語・表現を聞いて意味を理解しようとする、全体の意味を見失う恐れがある。話し手の思想の流れをつかんだら、それに身を任せて、次に話す内容を予測するゆとりを持たなければならない。言語形式を聞くのではなく、思想の流れを聞くのである。

■コントロールできるリーディング・スピード

書きことばの媒体は文字であるので、音声のように変化することはなく、きわめて安定している。したがって、リーディングの場合には、リスニングと違って時間に制約されることもなく、自分の納得するまでいくらでも時間をかけることができる。必要とあれば、

もう一度戻って読み直すこともできる。リーディング・スピードは自分のニーズに合わせて、自分で自由に調整することができるのが特色である。

英語国民のリーディング・スピードは毎分 250～350 語だとされている。ペーパーバックで言えば、約 1 ページ分の英語に相当する大変なスピードである。話すスピードは毎分 150～200 語であるので、大ざっぱに言うと、リーディング・スピードはリスニング・スピードの 2 倍ということになる。これは日本語の場合でも同じで、読むスピードのほうが話すスピードよりもはるかに速い。なぜだろうか。

話しことばの場合には、聞き手は黙って話し手の話を聞かなければならない。聞き手が勝手に聞く時間を短縮したり、延ばしたりすることはできない。これに対して、書きことばの場合には読み手は速く読んだり、じっくり読んだり、スピードを自在に変えることができる。特にスピードが速くなるのは、書かれている中心思想の流れをつかんだ瞬間である。一旦話の筋をつかむと、リーディング・スピードは飛躍的に加速する。この時は、文字を読んでいるのではなく、思想の流れに焦点を当てて読んでいるのである。そのため、細かい描写は読み飛ばされることとなる。中心思想をつかみ、その思想の流れに沿って意味を理解するという方法は、なにもリーディングだけでなく、すでに述べたように、リスニングでも行われている。言語理解とは、表層の言語形式を通して、深層に流れる意味をつかむことである。つまりスピードに慣れるということは、言語形式にあまり気を取られることなく、直接意味を理解するということである。

©1993 Yukio Saegusa